

キャラクター名  
相楽関音

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス ノイマン	ワークス	ボディガード	カヴァー	用心棒
オプション		年齢	13	性別	男
覚醒	無知	衝動	殺戮	初期侵食率	45%
出自	没落した血筋	経験	敗北	邂逅	芥

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	1	1	0			2	行動値	7
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	7
精神	5	0	0			5	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:	2		芸術:			知識:			情報:裏社会	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
デモンズシード	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
奇妙な隣人	P	N		
芥	P 信頼	N 疑問		
家族	P 同情	N 無関心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
散滅の腕	1	5	Xジャー	至近	単体	対決	-	
効果: 命中した場合「タイミング:常時」とエネミーエフェクト以外のエフェクト全ての効果を解除 1シナリオLv回								
原初の灰:鮮血の修羅	4	6+2	Xジャー	-	単体	対決	120	
効果: 組み合わせた攻撃でダメージを与えた場合対象はクリンナップにHPを-[Lv*10]点失う。使用したメインプロセス終了時HP-5								
原初の赤:サイレンの魔女	5	5+1	Xジャー	視界	シーン(選択)	対決	-	
効果: 攻撃力[Lv*3]の射撃攻撃、装甲無視、コンセ組み合わせ不可								
オリジン:レジェンド	5	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果: シーン間【精神】を使用した判定の達成値+[Lv*2]								
確定予測	2	4	Xジャー	-	-	-	-	
効果: 組み合わせた判定に対するリアクションのC値+2 1シナリオLv回								
虚構のナイフ	3	3	Xジャー	-	-	-	-	
効果: 組み合わせた攻撃力+[Lv*3]								
原初の白:異世界の因子	1	5+2	オート	視界		自動	80	
効果: シーン内で使用されたエフェクトをレベル1で取得 1シナリオ1回								
原初の虚:流刑者の大鎌	1	8+2	Xジャー	-	Lv+1体	対決	120	
効果: 組み合わせた攻撃の対象をLv+1体に変更、攻撃力+2D 1シナリオ1回								
代謝制御	★							
効果:								
イージーフェイカー:軽功	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「人の命なんて無価値で無意味さ。でもそれに色が付くなら、それは生き様よりも死に様だと思うんだよね」

「俺はどんなふうになるのかな。アンタはどんなふうになるのかな———ねえ、見せてみてよ」

「なあ芥、なんで俺にこだわるのかまだ教えてくれないの？ 気になって仕方ないんだけど」

『くふ、今のお前様には言っても理解できぬことであるからな。なに、何があるうと我は最期までお前様と共にあるゆえ、案ずるな』

▼経歴  
没落した元貴族の家系の長男。父親、母親との3人家族であったが生まれた時から所定の年齢で借金の担保として売り払われることが決まっており、『売り払うまで生かすためだけ』の最低限の生活を強いられて成長したため、一般知識や倫理観が欠如したまま育った。

運命の日。身柄を引き渡されるその日、ぼんやりと父親である男と初めて見る大人たちとの会話を眺めていた彼の脳に声が響く。

『ようやく見つけたと思えば...このようなつまらぬ些事でお前様が"終わる"のは、ちと我慢ならんな』

———  
脳内に流れ込む衝動。蒙が啓かれる感覚。一瞬前までとは根本から異なる自分。  
手を握れば、そこにはまるで何年も使い慣れたかのように手に馴染む虚構のナイフがそこにあり。  
身体を動かせば、どこをどう動かせば最適な動きができるのかを。  
周囲の大人たちを見渡せば、どこをどう裂けば人体は容易く解体でき(ころせ)るのか、全てを理解した。

突如オーヴァードとして覚醒した彼は、自らの内から湧く衝動に従いその場にいたすべての人間を殺害せしめ、そして傍らの少女とともに流浪の生活を送ることとなる。